

VVP 紫咲様シナリオ(全体5,000字想定)

「キャラクター紹介」

・主人公

毎日の連勤・残業で彼女もできるわけもなく、お金を使う時間も性欲が湧く時間もないような生活をしているあなた。だが突然の会社倒産で仕事から放り出されてしまった。

お金を使う道がなかったため、貯金だけはしっかりありこの後どうしようか悩んでいたところ、突然目の前に見慣れぬ神社が…？参拝だけすることに…

・天野美羽(あまのみう)

大人なお姉さん(標準語)。包容力があり、甘やかしてくれる。

「ラブノート」を作り出した愛の神様、張本人。あくまで人間界で生活するために、天野美羽の身体を依代にしている。なので、本来は性に関してもちよつとやそつとじゃ負けないのだが、天野美羽の身体に性感帯も依存しているため、そのギャップを体感する。

B90・W57・H86

165 ㎢ 55 ㎏ 20代後半(神様自体は年齢不詳・世界の誕生と共にある)

・琴石しずく(こといししずく)

ツンデレダウナー系女子(関西弁)。

マンションの隣に住んでいて、たまに朝方玄関で鉢合わせる「下」。態度はそっけなく口は悪いが、毎年バレンタインをお裾分けしてくれたりする不思議な存在。

主人公の事が好きで、玄関出る時間を合わせてわざと鉢合わせたり、しれっと洗濯物のパントの色などを確認している変態性もある。最終的にはデレてくれる。

B80・W58・H82

148 ㎢ 40 ㎏ 18才。

・若菜都(わかなみやこ)

癒し系ほんわか(京弁)。マンションの大家さん。若いのに家賃もしっかり払ってくれている主人公に好感がある。大家仕事は親から引き継いだもので、大学と両立させながら生計を立てている。話し方はゆっくりめ。基本的には大人だが、たまに抜けてるところがある。

B85・W62・H86

162 ㎢ 50 ㎏ 21～23才

※指定の順番からキャラを入れ替えました。意図としては神様をすぐに選ぶのはちょっとアグレッシブすぎて他キャラをその後選びづらい点と、プレイになると方言がうまく活かしづらいかなと思ひ、この順番にしました。問題あれば変更いたします。

プロット

「トラック1：プロローグ。」(500字)

場所：神社

会社が倒産してしまった帰り道になんとなく歩いて帰りながら考えているといつも見慣れない位置に神社が：？入って参拝してみると神様が出てきて、今まで頑張ってきたあなたが報われるように愛のノートを授けてくれる。名前を書くどんなサービスもしてくれるというノートを手渡され神社は消えてしまう…

「トラック2：隣の[K](1500字)

深夜、ふとノートを思い出し、恐る恐る深夜に名前を書いてみるあなた。隣に住んでいてたまにすれ違う「K」の名前を入れてみるとピンポンがなり、突然耳かきをしてくれることにお風呂上がりなのかほかほかな「K」に膝枕されて耳かきをしてもらうトラック。

プレイ内容：耳かき

「トラック3：大家さんの耳なめとパイズリ」(2000字)

翌日のお昼に家賃を受け取りに来た大家さん。いつもは会社にいるため指定されたボックスに家賃袋を入れているが、当人がいて初めて鉢合うことに。まさかいるとも思っただけラフな格好で会ってしまい恥ずかしがる大家さん。一言二言会話してそのまま去ってしまうが、ノートのことを思い出し急いで書いてみると大家さんが戻ってきて耳舐めをしてくれることに。パイズリもダメ元でお願いしてみると、してくれぬがこれはノートの力ではなく、大家さんの好意と変態性だけ。※尺的にちょっと厳しかったです！すみません！

プレイ内容：耳舐め・パイズリ

「トラック4：神様への恩返しプレイ」(2000字)

その日の夜、本当にノートの実用性を認識した主人公の元に神様がやってくる。天野の身体を借りてやってきた神様に感謝し、ノートに名前を書く主人公。神様は動揺しながらもノートの効力には勝てず、奉仕することに。

プレイ内容：本番(射精)

トラック1…プロローグ(雰囲気説明トラック)

SE：セミの鳴き声と蒸し暑い空気

SE：神々しい系のベタ敷SE

【正面】

愛の神「汝、愛を知りたいか…？」

知りたければ…我が神社に参拝するが良い…さすれば…愛とか…恋とか…

なんかそこら辺の…えーっと…何か…？を知ることになったりするだろう…」

SE：街中を歩く音↓止まる神社お参り

愛の神「パンパカパーンっ！いやあ…肩凝った…っ！ふう…」

あ、初めまして…私…愛の神です…ふふっ♪」

愛の神「あれ…もしかして信じてない？確かにちょっと怪しいかもしれないけど…。

まあ別にいいんだけどね…信じてても、信じなくてもどちらにせよあなたは

これから『特別な愛』を体験することになるんだから…」

愛の神「これはね…今までお仕事や、人生を脇目もふらずに頑張ってきたあなたへの

『ボーナスタイム』なの…♪」これから起こることは全部現実で起こること…

あなたへのご褒美だと思ってしっかりと受け取ってね…？」

愛の神「まずは…これ『ラブノート』これはね…このノートに名前を書いて何をしたいか

考えるだけでどんなことでも叶っちゃうとってもすごいノートなの！

ちなみに制作者は私。」

愛の神「ただノートの効力は『絶対』だから、必ず叶っちゃう点が注意ね…？」

まあ、このノートが渡される人はそういう使い道の選定も含めて問題ないと

判断されたってことだから大丈夫だと思うけど…」

愛の神「おっと…神の姿の限界が来ちゃった…それじゃあいいラブライフを…♪

【右耳にふわっと寄って】私も人間の身体で見守ってるね…バイバイ♪」

溶けるようにSEがなくなる

トラック2…1人目・琴石しずく

SE：夜の音

自宅でノートを開く・書き込む(躊躇感出すの効果音だけだと難しいかも)

SE：ドアベル

しずく「もしもし…隣の琴石ですけど…夜分にすみません…

えーっと…用事があったんですけど…」

SE：ドアを開ける

しずく「その…なんていうか…お兄さん毎日疲れてると思うんで…その…ご近所」
不として

癒しに來たっていうか…なんでって…、なんでだろ…わからないけど…

とりあえず入ってもいい？…お風呂入ったばっかで体冷えちゃう…」

しずく「お邪魔しま〜す…。へ〜…なんか間取り一緒なのに家具が違うとこんな感じなんだ

辺な感じ〜でも結構綺麗じゃん…椅子は…一人分しかないか…

じゃあここでいつか…ほら…ここに寝っ転がって…？」

しずく「え…？布団は流石につて…別に…お兄さんの布団でしょ？私別に気にしないし…

それに、耳かきするだけなんだからどこでもいいんじゃない？」

しずく「え？それだけって…だつて耳かきするために來たんだし…何をそんなに

驚いてんの？なんか変なこと言った？ほらもういいから…つと…」

【右耳激近め】

しずく「はい確保っ…お兄さんは大人しく…耳かきされるんだぞ〜…

ほお〜ら…まずは〜ふう〜〜〜…ふう〜〜〜…ふう〜〜〜…」

しずく「うん…うん…♪これであらかたのゴミはなくなつたかな…っ…

これ…知ってる？梵天(ぼんてん)…♪これで耳の掃除をすることによって

お耳の細かい部分を傷つけずに、お掃除できるんだよ〜…っ」

しずく「じゃあいくね…ゆっく〜り…ゆっく〜り…ゆっく〜り…

入っていくよ〜…ふわふわ〜って気持ちいいでしょ…？」

トラック3…2人目・若菜都

SE：昼の音

SE：ドアベル

みやこ「あの～すみません～…大家ですけど～…いらっしやいますか～？」

SE：ドア

みやこ「わっ…！あ、あの…すみません！その…今月のお家賃の件でいらっしやったので
直接受け取りに…と思っただのですが…そのいつもいらっしやらないので、
まさかいるとは…す、すみません…こんなラフな格好で…恥ずかしい…」

みやこ「え…！？会社が倒産しちゃったんですか…？それは…すごい大変なことでは…？
あ、当面は貯金があるんで大丈夫なんですわね…でも大変ですわねいきなり…」

みやこ「こういうのも何かの縁ですから何か私に手伝えることがあったらいつでも言っ
てくださいね…？ま、まあ私ができることなんてないかもですけど…」

みやこ「そ、それじゃあ私はこれで…！頑張ってください…！」

SE：離れる足音「右にはける」・部屋に入る

ノートを手に取り・大家の名前を書く

SE：ドアベル

SE：ドア

みやこ「す、すみません…そういえば私に出来ること…一つわかったので…できればな…と
そ、その…いつも…お仕事で大変でしょうし…その…溜まってる…んじゃ…
ないのかな…って…」

みやこ「な、何がってその…下半身…というか…。わ、私でよければ…その…お手伝い
出来るかも…なんて…言ってみたり…ご迷惑ですよね…？」

みやこ「え…そんな…私に出来ることであれば…なんでもしますから言ってください…♡
そのじゃあ…まず…キスから…」

「フレンチ→ディープキス30秒」

みやこ「んはあ…すっごいパンパンじゃないですか…相当溜まってるんじゃないですか？

(右耳近くに移動)それじゃあ…いっぱい…シコシコしてあげますね…？」

SE:ジッバー

みやこ「うわあ…すっごいここまで一気に我慢汁の匂いがしてきますよ…♡

私なんか興奮してくださってるだなんて嬉しいです…♡」

みやこ「あら…お耳…息がちよつと当たるだけでビクンビクンして…もしかして弱い…

んですか…？♡ふふっ…可愛いですね…それじゃあ…こんなことしたらあ…」

「右耳なめ30秒」

みやこ「ああ…あ…おちんちんからお汁だらだらですね…♡

シコシコするたびにグチュグチュえっちな音がしちゃってますよ…？♡」

みやこ「え…？そんなお耳舐め舐めしながらおちんちんいじって欲しいんですかあ…？

いいですよ…♡それじゃあこっち側のお耳も(左に移動しながら)いっぱい

きれいにしてあげますからね…♡」

「左耳なめ30秒」

みやこ「すっご…おちんちんビクンビクンいってますよ…♡気持ちいいんですね…♡

私にお耳とおちんちんをいようにされて…情けなくイっちゃうんですね…♡」

みやこ「いいですよ…♡女の子みたいな声を漏らしながらイっちゃってください…♡

ほーらっ♡イっちゃえっ…♡イっちゃえっ…♡イっちゃえっ…♡

イキそう…？♡もう出る…？♡出ちゃう…？♡イク…♡イク…♡イク…♡

イっっっっっく…♡♡♡」

みやこ「はあ…♡♡はあ…♡♡はあ…♡♡はあ…♡♡すっごい…♡

いっぱい出ましたね…♡こんなに出るなんて…本当にすごい…♡」

みやこ「気持ちよかったですか…？♡…良かったです…♡

え…？手に付いた精液…？いや、拭くなんて勿体無いですよ…♡」

(手を舐める10秒+お掃除フェラ30秒)

みやこ「ふう…これで…綺麗になりましたね…♡また溜まったら

すぐに呼んでくださいね…？スッキリ…♡させて上げますから」

トラック4…3人目・天野美羽

SE：夜の音

SE：神々しい系のベタ敷SE

みう(愛の神)「正面」

みう「はいはい…どお…？ラブノートの効果はなんとなく実感できたみたいですね
うんうん…さすが私…このノートは誰であっても抵抗できないの…♡」

みう「あ、よいしょ…と…ふう…お久しぶり…♡といっても2日ぶり…か…♡

ああこの身体はね、現世に滞在するために依代としての身体なの。」

みう「神様も現世に止まるには天野美羽っていうただのしがない〇」の身体を借りなきや
満足に生活もできないってことなのですよ」

みう「この身体でいればご飯だって楽しめるし、人と触れ合うことも…つて…聞いている？
ん…？ラブノート…？ちよ、ちよつとまつ…ンツ…！！♡♡♡♡♡」

みう「そ、そんな…なんてこと考えるの…依代とはいえ神様の私とえつちなこととか…
その…反則なんですけど…！ほんとに…抵抗できない…♡私優秀…つとか
言ってる場合じゃ…ないかも…♡ね、ねえ…ああ…もう…だめかも…♡」

「右耳に倒れ込むように激近で」

みう「私もう…身体があなたのおちんちん求めて仕方ないの…♡ねえ…頂戴…♡
意地悪しないで…♡私の心も身体も自由にしたいから…♡」

みう「あつ…おちんちん…先っぽがおまんこに当たるだけでも…脳が溶けちゃいそう…
早くう…♡早く奥まで…頂戴…♡はあん…♡くる…くる…♡んああっ
キタ…♡一番奥まで…すっごい…♡あつ…そこぐりぐりしてるとこ…♡」

みう「私の依代…♡あなたのおちんちんと相性良すぎる…かも…♡ピストン…♡
早くいっばいじゅぼじゅぼして…♡んああっ…♡そう…そこ…♡」

「大喘ぎ30秒」

みう「おく…♡いっばい…♡いっばい…♡♡気持ち…♡すご…♡
こんな気持ち…♡の…♡はじめて…♡セックス…♡気持ちい…♡
ああん…どうしたの…♡♡チューしよっ♡」

「正面」

みう「ん〜っ…♡(キス10秒)はっ…♡くるしっ…♡もっど…♡もっどっ♡んっ〜っ
(激しめキス10秒)意識…飛んじゃう…っ♡んっ…っはあ…私っ…もうっ…
やばい…かもっ…♡」

みう「イキそう…っ♡イキそう…っ♡イキそう…っ！♡イク…っ♡イク…っ♡イク…っ♡
イク…っ♡イク…っ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

みう「かはっ…あ〜っ…♡はあ〜っ…♡はあ〜っ…♡はあ〜っ…♡はあ〜っ…♡
も、もう…神様に中出し…だなんて…っ罰当たりなんですからね…っ♡」

「右耳激近」

みう「で、でも…その…もう少し…二人で…ラブノートの効力…試して…みませんか…?♡」